

平田道憲（広島大）

目的 夫婦の生活時間配分に相違があることはよく知られた事実である。本研究の目的は、夫婦の生活時間配分の相違を、タイミングからみた夫婦の生活行動の相互関係の視点から明らかにすることである。

方法 東広島市旧西条町在住の夫婦を対象とした生活時間調査を実施：1995年12月、二段階確率比例抽出、標本160組、有効回収数113組(70.6%)、金曜・土曜二日間の生活時間ならびに個人・家族の属性、態度を調査。本研究では、夫が有職かつ金曜が就業日だった世帯について分析した。タイミングの具体的な分析方法は、1日24時間を15分ごとに96の時刻に区分し、各時刻ごとの夫婦の行動の関連を検討した。

結果 (1) 時刻別の夫婦の行動が大分類レベルで一致する比率が高いのは、金曜は妻がフルタイムの場合であり、土曜は妻が専業主婦で夫が非就業日の場合である。(2) 夫が寝ていて妻が起きているケースはその逆より多い。夫が寝ているときの行動は、専業主婦の場合、半分弱が家事労働である。(3) 金曜に夫が職業労働に従事している時間帯に、フルタイムの妻は69.0%が職業労働に従事し、専業主婦は56.5%が家事労働に従事している。(4) 逆に、金曜に妻が家事労働に従事している時間帯に、フルタイムの妻の夫の21.6%は自由行動をしている。専業主婦の妻の夫は67.4%が職業労働に従事している。(5) 土曜に非就業の夫の家事労働時間は平日より長くなる。専業主婦世帯の場合、非就業の夫が土曜に家事労働に従事している時間帯の74.7%は妻も家事労働に従事している。(6) 土曜に夫が非就業の場合、自由時間にしめる夫婦共通の時間帯の比率は高くなる。